

タイトル：動物園の混合飼育における環境エンリッチメント効果の検討

日本女子大学人間社会学部心理学科

西條未来 小山高正

環境エンリッチメントとは、「動物福祉の立場から、飼育動物の幸福な暮らしを実現するための具体的な方策」である(松沢, 1999)。飼育下においても、野生と同じような行動を引き出すことを目標として行われる。よこはま動物園ズーラシアでは、この目標を達成するため、混合飼育を行っている。サバンナエリアで、有蹄類(キリン、エランド、シマウマ)と食肉目(チーター)が、柵で隔てられることなく飼育されている。本研究は、サバンナエリアにおいて、他種の存在が飼育動物にどのような影響を与えるかを検討した。方法は、1分ごとに動物の位置と行動を記録し、時間、飼育頭数、チーターのありなしの条件で分析を行った(45 時間)。結果、時間による変化は、どの動物も午前中に餌を多く食べ、午後は反芻や常同行動をおこなっていた。チーター条件では、草食動物の行動や場所に変化はなかった。エランドの頭数条件では、1頭で展示されたエランドは、3頭で展示されていたときと比べて採食の時間が短くなり、静止している時間が増加した。また、動物は種ごとに集まることも明らかとなった。このことから、混合飼育においても、他種よりも同種の存在の影響が大きいことが示唆された。